

頭ヶ島に移住した潜伏キリシタン

頭ヶ島北部白浜海岸へと移住した潜伏キリシタンは、海岸から山域にかけての斜面に石積技術を駆使して耕作地を開拓しました。彼らはイモ作を主体とする農業を営みました。時間の経過とともに、南海岸の田尻や西海岸の浜泊など島内に広く移住し、集落や農地を展開していきました。潜伏キリシタンは、表向きは近くの中通島にある仏教寺院の信徒を装う一方、潜伏キリシタンの共同体の指導者のもと、ひそかに自らの信仰を続けました。

CAPTIONS & CREDIT

白浜海岸 1967 年

長崎大学白浜遺跡発掘調査チーム